

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和3年(2021年)

4-5月号

(通巻 193号)

2021年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

チゴユリ

山に行けば普通に見られる野草も、市川市域では貴重品です。都市化が進むなかで生き残った貴重な存在です。

P1 ☀️ いきもの写真館
チゴユリ

P2 / 4 ☀️ 市川市内の絶滅危惧種
ー 爬虫類・両生類
・魚類

P5 ☀️ いちかわの植物 30年
ノアザミ
コウゾリナ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
タヌキとカエル

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
ヘラクレスオオカブトのさなぎ

P7 ☀️ わたしの観察ノート
1～2月頃の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。

市川市内の絶滅危惧種

－爬虫類・両生類・魚類－

レッドリストは、絶滅のおそれのある野生生物をリストアップしたものです。新しく環境省より「環境省レッドリスト 2020」が公表されていますので、そのリストから市川市域に生育・生息する種類を抽出してご紹介します。第1回は爬虫類・両生類・魚類です。

（絶滅危惧の度合いの表記は、ローマ数字を算用数字に置き換えています）

ニホンウナギ

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧1B類

市内の生息地:おもに江戸川

ニホンウナギは、市川市域ではおもに江戸川に生息しています。春に稚魚（シラスウナギ）や幼魚（メソッコ）が東京湾から遡上するほか、成魚も生息しています。都市河川の水質の改善にともなって近年は大柏川での目撃例もあります。数が減った原因はさまざま指摘されていますが、市川市域に限って言えば、田んぼや水路が無くなったことが大きな理由です。



ホトケドジョウ

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧1B類

市内の生息地:長田谷津(大町公園)

ホトケドジョウは、市川市域では長田谷津（大町公園内の自然観察園）に生息しています。成魚は湧水が流れる水路で見つか

ることが多く、幼魚は湧水がたまった浅い水辺で見つかります。長田谷津のような谷津は、かつては市内でも普通でしたが、現在、谷津の環境が残るのは長田谷津だけになっています。



スナヤツメ

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類

市内の生息地:長田谷津(大町公園)

スナヤツメは、市川市域では長田谷津（大町公園内の自然観察園）に生息しています。長田谷津でも個体数は多くないと思われ、水路の限られた範囲だけで毎年、繁殖を確認しています。湧水が流れる砂底の水路という環境がなくなり、市域での生息地も長田谷津だけになりました。なお、環境省リストでは北方種と南方種の2種に分ける最新の知見を用いていますが、市川

市域は両種の混在域にあたり、また、外見では見分けられないことから、ここでは単にスナヤツメと表記しています。



マサゴハゼ

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類

市内の生息地:江戸川放水路

マサゴハゼは、市川市域では江戸川放水路に生息しています。体長3cmくらいの小さなハゼで、泥干潟の浅い水たまりで見られます。江戸川放水路の生息場所ではそれなりの数が見られますが、生息範囲はきわめて限定的です。知名度が低いので、気がついた時には絶滅していた、というパターンが心配です。

ドジョウ

絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧

市内の生息地:長田谷津(大町公園)

ドジョウは、市川市域では長田谷津（大町公園内の自然観察園）に生息しています。ほかにも、「ふれあい農園」（大野町4丁目）で幼魚を、「市川南ビオトープ」（市川南5丁目）で越冬個体を確認しています。

ただ、市川市域のような都市部ではドジョウの評価にはむずかしい面があります。飼育から逃がされた個体とその子孫が多くいると思われるからです。総合的な判断

として、少なくとも長田谷津には昔からの個体群が残っていると考えています。



トビハゼ

絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧

市内の生息地:江戸川放水路、行徳近郊

緑地特別保全地区

トビハゼは、市川市域では江戸川放水路と行徳近郊緑地特別保全地区に生息しています。泥干潟に巣穴を掘って繁殖し、越冬もします。卵からかえった稚魚は、当初は浮遊生活をしますが、その後は干潟に定着します。一生の大半において干潟から離れることがないので、海の魚としては場所との結びつきが強い種類と言えます。



市内での記録があっても絶滅危惧種として扱わない種類

この記事では、「環境省レッドリスト2020」（以下、環境省リスト）に掲載された種類のなかから、市川市域で記録がある

種類を抽出して扱っています。市川市域の記録としては「市川市史自然編」の生物目録（以下、市史目録）を用いています。しかし、市史目録に掲載されている種類であっても、「市川市域の絶滅危惧種」として扱わない場合もあります。

環境省リストには、爬虫類のニホンイシガメが準絶滅危惧、ニホンスッポンが情報不足という区分で掲載され、市史目録にも掲載されています。ただ、現在の市川市域でそれらのカメが見られる場所の履歴を考えると、繁殖できる環境が昔から長く継続されてきたわけではありません。そのため、すべての個体について、逃がされたものとその子孫と判断しました。

両生類ではトウキョウダルマガエルが環境省リストに準絶滅危惧として掲載され、市史目録にも掲載されています。トウキョウダルマガエルは増水後の江戸川河川敷で見つかることはありますが、そこで世代を繰り返せるわけではありませんので、やはり絶滅危惧種としました。

魚類では、環境省リストに絶滅危惧1A類

としてワタカ、絶滅危惧1B類としてゲンゴロウブナ、絶滅危惧2類としてハス、スゴモロコが掲載されています。現在でも江戸川で見られますが、もともとは琵琶湖・淀川水系の固有種です。江戸川のものは移入種なので、絶滅危惧種ともしませんでした。

逆に、環境省リストだけに名前がある魚類のエドハゼ、サクラマス（ヤマメ）、クルマサヨリ、ヒモハゼは市川市域でも時に見られる可能性があります。市川市域との結びつきは弱く、ここでは取り上げませんでした。

市内では絶滅したと判断した種類

環境省リスト掲載種のうち、両生類のアカハライモリ（準絶滅危惧）、魚類のゼニタナゴとアオギス（絶滅危惧1A類）、キンブナとミナミメダカ（絶滅危惧2類）、ヤリタナゴ（準絶滅危惧）はすでに市川市域では絶滅したと判断しました。近年まで見られたキンブナ以外は、市史目録にも載っていません。

「環境省レッドリスト2020」からの抽出手順

- ①. 「環境省レッドリスト2020」(以下、環境省リスト)をダウンロードする
- ②. リストはPDF形式なので、それをワードで開くと、ワードの表になる
- ③. ワード表から必要な爬虫類・両生類・魚類の範囲をコピーしてエクセルに貼り付ける
- ④. 「市川市史自然編」のDVDディスクから爬虫類・両生類・魚類のエクセルファイルを読み込む
- ⑤. ③と④のエクセルファイルのデータを同一のエクセルシートに置く
- ⑥. エクセルの「条件付き書式」の「セルの強調」を使って「重複データ」のセルに着色する
- ⑦. 環境省リストのうち、「市川市史自然編」の目録にも掲載されているセルだけに色がつく(ただし、ニホンウナギとウナギ、スナヤツメ北方種、南方種とただのスナヤツメなど、同じ種類でも両方で表記が違っていると着色されない)
- ⑧. 市川市域ですでに絶滅した種類は「市川市史自然編」には書かれていないので、いろいろな資料を見て環境省リストから手作業で拾っていく。

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

ノアザミ

何十年も前、縁があって神奈川県のア野市の自然観察施設に話をしに行ったことがありました。市川市ではノアザミは珍しいです、と話したら驚かれてしまいました。千葉県でも房総の方へ行けば普通に見られる植物ですが、市川市域は都市化が進み、特に草原環境がなかったので珍しい存在でした。

写真は、江戸川放水路の堤防で撮影したものです。定期的に草刈りされる江戸川堤防は、草原の環境そのものでした。いろいろな工事で昔からの植物群落が失われる場合もありますが、運よく残っている場所もありました。



ノアザミ(1986 年 5 月 24 日)
妙典 2 丁目 江戸川放水路。春に咲くアザミ。

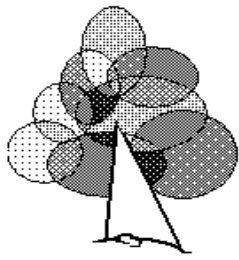
コウゾリナ

ノアザミと同じ場所でコウゾリナも咲いていました。やはり草原環境を好むので、市川市域では珍しい存在でした。平坦な地形でありながら市川市域に草原環境が少ないのは、市の中南部は低地で、草原ではなく湿地環境だったからです。ノアザミやコウゾリナが生える草原があるなら北部の台地上ですが、農地と林が多く、草原的な場所は林の伐採などで一時的に出現するだけでした。

市域北部の台地は、松戸市や鎌ヶ谷市、白井市に続いています。千葉ニュータウン予定地には豊かな草原があることが知られています。



コウゾリナ(1989 年 5 月 1 日)
妙典 2 丁目 江戸川放水路。ハルノノゲシよりも色が濃くざらざらしている。



タヌキとカエル

玄関先の植え込みにカナヘビがいました。今年の新顔は、アメリカフウロです。まだ花は咲いていません。空地では、ホトケノザの鮮やかなムラサキの花でいっぱいです。2月27日深夜、娘が「クフーン」という声がして、懐中電灯で照らすと目が光った。姿までは見えず、植え込みに入った」と。暮れにご近所で、「〇〇さんの敷地にタヌキが二匹いるらしい」と聞いていました。庭づたいにこちら側の路地に出てきたタヌキのようです。

3月2日と5日久しぶりに雨が降りました。池があったお屋敷は、何区画かに分譲され、夕方と夜9時過ぎに様子を見に行くと、道路では何匹かすでに轢かれたカエルが……。道端と元池のあたりにいたカエルを持ち帰りました。「かつては

田畑や池や用水があった八幡」のカエルの子孫です。例年の猛暑でたたきの上の甕では夏場暑くて枯れてしまうハスやクワイ、セリを、庭に埋め込んだセメントを捏ねる「プラフネ」に植え替えてありました。プラフネに入れるとすぐに逃げ出すもの、浸かったままのカエルもいました。翌朝見ると、卵を産んでありました。数日で白くなってしまう卵もあり、オタマジャクシに近い形になってから死んでしまうものもあり、それでもおびたしい数のオタマジャクシが今は泳いでいます。カエルになった時、駐車スペースの方に出てこないように、柵を植えこみました。保護したカエルたちは、庭のどこかにいるといいのですが、姿をあれから見ていません。

(M. M.)

No.37

展示室 飼育生物の話題

ヘラクレスオオカブトのさなぎ

外国産のカブトムシやクワガタムシは、いつもブリーダーさんからいただきます。ヘラクレスオオカブトの幼虫がサナギになったので、掘り出して人工蛹室(ようしつ)で展示しました。みなさん興味深く見てくださり、羽化が楽しみです、と言ってくださいました。臨時閉館中に羽化してしまい、しかも翅(はね)がうまく伸びず、成虫は2日の命でした。再開初日から駆けつけてくださった人もいて、心底残念がっていました。

こっそり成虫を買っていれちゃおうか、とも考えましたが、正直に申告しました。博物館でも失敗するというのを伝えたかったのです。





◆中山法華経寺より

- ・以前はいなかったのですが、龍王池でカルガモを普通に見られるようになりました(1/1)。この日は7羽浮いていました。ミシシippアカミミガメも2匹日光浴していました。冬眠しないのですね。
- ・龍王池にはカルガモが8羽、池岸にジョウビタキのメスが1羽、聖教殿のわきにはシジュウカラ、エナガ、メジロの混群、シロハラ1羽、地面で採食していました(1/5)。
- ・龍王池にはカルガモが15羽、カワセミのオスが1羽飛来し、カダヤシのような小魚を捕らえていました(1/20)。刹堂のわきにシロハラが1羽、聖教殿の前ではモズのオスが1羽見られました。
- ・晴れてとても暖かく、祖師堂の裏でキタキチョウとキタテハが1匹ずつ飛びました(2/21)。龍王池にはカルガモが5羽浮き、ミシシippアカミミガメを数えたら56匹もいました。聖教殿の前ではシロハラとウグイスが1羽ずつ見られました。

●北方町より

- ・調整池をのぞいたところ、ヒドリガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、オオバンが集まり、ヨシガモのオスも1羽、岸で休んでいました(1/8)。

●こざと南公園より

- ・池のほぼ全面に薄氷が張り、カワセミのオスが1羽飛んで水門に止まりました(1/8)。

●大柏川第一調節池緑地より

- ・ヨシ原からクイナが1羽出てきました(1/8)。カワセミも2羽見られました。

●真間川より

- ・大柏橋から原木まで川沿いに自転車でくたびりましたが、毎冬多数見られるユリカモメを一羽も見ないのが不気味でした(1/8)。大柏橋にはキセキレイが1羽、植え込みのハマヒサカキの実にムクドリが集まり、原木橋近くにカンムリカイツブリが2羽、他にはカルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、アオサギ、カワウ、オオバン、カイツブリなど。

●原木山妙行寺より

- ・境内の池でコガモのオス2羽とメス1羽が水浴びをしていました(1/8)。

以上 田中利彦さん(船橋市在住)

●国府台より

- ・散歩の途中に里見公園分園でコゲラを見ました(2/5)。久しぶりの対面でした。

M. T. さん

- ・堤防築造時、里親としてお手伝いした我が家のフジバカマ苑のフジバカマが去年より多く発芽し、元気に育っています(3/3)。
- ・雑草の花ハコベ、ヒメオドリコソウ、2月から満開です。

以上 秋元久枝さん(国府台在住)

雪の予報が出て、雨になりました。冬としては珍しく、雨がしっかり降りました。2月になると日中は暖かく、春の進みを実感しました。

自然博物館のwebサイト（ホームページ）を 調べ学習や事前学習にご活用ください

自然博物館のwebサイト（ホームページ）では、つぎのような素材（コンテンツ）をご用意しています。

○ オリジナル動画

- ・ グリーンスクールで訪れる大町公園の自然観察園（長田谷津）について、毎月の風景や動植物を動画で紹介しています。
- ・ 同じく長田谷津について、タヌキやノウサギ、オオタカなど、一般の観察では見られない動物の生態を、センサーカメラで記録した動画で紹介しています。
- ・ 展示や、学校への出張授業で用いた教育普及用動画が見られ、順次増やしていきます。

○ 自然観察週報

自然博物館の学芸員の観察記録です。1998年からのデータを1年ごとにエクセルのファイルで提供しています。すべて市川市内の情報なので、子どもたちのタブレットにダウンロードして調べたい生き物を種名で絞り込んだり、長田谷津や江戸川放水路など場所で絞り込んだりすることができます。たとえば野鳥の「カシラダカ」で絞り込むと、長田谷津では2011年を最後に記録がありません。その原因をテーマに調べ学習を発展させるのもおもしろいと思います。

○ 自然博物館だより

自然博物館が隔月で発行している読み物です。市川市内の自然の話題を取り上げているほか、分類学や生態学の立場で自然や生き物を解説した記事もあります。最新号および創刊号までのバックナンバーをPDF形式のファイルで提供しています（ダウンロードできます。古い号は準備中です）。自然博物館が発行したものですから、書かれている内容についてお問い合わせいただくことも可能です。記事について子どもたちとメールでやりとりできれば楽しそうです。

○ デジタル展示室

過去の企画展のパネルなどをご覧いただけます。今後、調べ学習に使いやすいように内容を更新していきます。

第34巻 第1号（通巻第193号）

令和3年4月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477